

倫理（3年文系） 指導と評価の年間計画 3単位

目 標 【学習指導要領】	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
到達目標に向けた具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容への関心を高めるため、様々な思想家に関わるエピソードや格言などを話題にしながら授業の導入を行う。 ・到達すべき知識・理解につながる発問を用意し、その答えを考えさせることによって筋道を立てて学習させる。 ・図表や読み物資料・写真・映像などの教材を活用して、倫理的諸問題や思想内容についての理解を深めさせる。 ・様々な具体例を織り交ぜながら授業を展開することにより、現代社会の基本的な問題と人間に関わる課題を自己の問題・課題として考察させ、人生観・世界観の形成を目指させる。 ・定期的に確認用の小テストなどを実施し、基礎的知識の定着を図るとともに授業内容を補強し、各思想やそれら相互の関係、及び現代における倫理的諸課題について関心や意欲を高めさせる。

評価の観点	評価の内容	評価の対象
関心・意欲・態度	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	行動観察、授業中の発言、ワークシート、生徒による自己評価
思考・判断・表現	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見出し、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	授業中の発言、ノート、ワークシート、定期考査、レポート
資料活用技能	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	ノート、ワークシート
知識・理解	青年期における自己の形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事項を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。	授業中の発言、定期考査

月	単元名	項目	時	単元を貫く目標	主な学習活動と評価のポイント	評価方法
4月	第1編 青年期の課題と人間の自覚					
5月	第2章 人間としての自覚	第1節 ギリシア思想	6	人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などについて理解させ、人間の存在や価値に関わる基本的な課題について思索させることを通して、人間としての在り方生き方について考えを深めさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・古代ギリシアの思想が出現した歴史的必然性を、世界史の既習事項と重ね合わせて考察する。 ・古代ギリシアの思想が理性的な人間観に支えられていることを把握した上で、自らの課題と結び付けて思想内容を理解する。 ・思想が相互に類似性をもつことを理解し、今後の倫理学習への関心を高める。 	行動観察 ワークシート 授業中の発言 定期考査
		第2節 キリスト教	5		・アガペーやパウロの原罪思想などを自己の課題と重ね合わせて考え、人間としての在り方生き方についての思索を深める。	
		第3節 イスラーム	1		・現代世界の政治や社会の動向と関わらせながらイスラームの起源について理解する。	
		第4節 仏教	5		・縁起や業、慈悲の思想を理解し、生命の深遠さや人間としての生き方について自己の課題と重ね合わせて考察する。	
		第5節 中国思想	5		・仁や礼、性善説や性悪説、及び無為自然や万物斉同といった古代中国の思想について、思想家同士を対比させながらそれぞれの特徴や当時の政治状況との結び付きを考察する。	
		第6節 芸術と人生	1		・自己の思想や心情、生き方を作品として表現し、人々に深い感動を与えた芸術家について理解する。	
6月	前期中間考査		1		・学習の状況について自己評価する。	定期考査

7月	第3章 日本人としての自覚	第1節 古代日本人の思想	2	日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風	・日本人の人間観、自然観、宗教観について民俗学の成果の側面から理解を深める。 ・罪や穢れ概念、日本の美意識や自然との関わりなどを今日の生活に関連する事項や江戸時代の古学の成果を例としながら、日本伝統思想の底流として理解する。	行動観察 授業中の発言 ワークシート 定期考査
		第2節 日本の仏教思想	6	土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己との関わりにお	・聖徳太子や最澄、空海、及び鎌倉仏教の担い手たちが、それまでの仏教をどう受け止め、それに対してどのように独自の思想を展開したかを理解し、日本独自の仏教の受容やその思想形成について文献資料を基に考察する。	
		第3節 近世日本の思想	5	いて理解させ、国際社会に生きる主体性のある	・江戸期における儒学諸派の思想家が、儒教をどのように受け止め、日本人の思想形成にどのような影響を与えたかを文献資料の読み取りを通して理解する。	
			1	日本人としての在り方生き方に	・仏教や儒教、神道等の影響を受けて町人や農民の思想が形成されたことを、既習事項を総合的に活用しながら考察する。	
8月	第4節 西洋思想の受容と展開	1	について自覚を深めさせる。	・日本人固有の精神と美意識について理解する。		
		5		・日本人が伝統的な思想や文化を土台としながら西洋思想を受容し独自に発展させていったことを文献資料の読み取りを通して理解する。 ・近代日本の思想的な成熟の過程を、人間個人の心理的な成熟の過程と重ね合わせて考察し、理解する。 ・近代的自我の目覚めと人間解放の思想や運動について、近代日本の歴史と思想を結び付けて理解する。 ・戦後日本における諸思想の葛藤を、戦前戦中の国家主義的な思想と関連させながら理解する。		
自分の中のエスノセントリズム		1		・新聞論調に見られる自民族中心主義を抜粋し意見交換をする。	ワークシート	
第2編 現代と倫理						
9月	第1章 現代に生きる人間の倫理	歴史と人間	1	人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と	・西洋近代がもたらした現代の倫理的課題について、世界史における合理的思考の展開を踏まえて考察する。	行動観察 授業中の発言 ワークシート 自己評価 定期考査
		第1節 人間の尊厳	2		・人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間との関わり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福、といったテーマを取り上げ、個々の思想家が探求した思想内容がどのような今日的課題と関わっているかを理解し、具体的な問題解決の方向を提案する。	
		第2節 科学・技術と人間	4	人間との関わり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などに	・社会契約説における個人と国家の関係を理解し、民主社会の原理について理解する。	
		第3節 民主社会と自由の実現	4			
	第4節 社会と個人	3				
前期期末考査		1		・学習の状況について自己評価する。	定期考査	
10月	第5節 人間への新たな問い	10	な見方や考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方に関わる課題として考えを深めさせる。	・近現代の西欧思想が、地域や時代によって異なる特徴を呈していることを理解し、それぞれの思想家が抱えていた倫理的な課題の特徴について文献資料を読み取り考察する。 ・巨大化、複雑化した現代社会において発生した人間疎外という現象を克服しようとした思想について理解する。	行動観察 ワークシート 定期考査	
		9		・人間及び生命尊重の思想について理解し、望ましい他者との関わり方や社会参加の方法を自らの課題として考察する。		
11月	第6節 社会参加と幸福	9				
倫理のまとめ		1		・既習範囲を振り返り、様々な人間観・思想・宗教を総合して、倫理を学習する意義についてレポートを作成する。	レポート	

	学年末考査	1	・学習の状況について自己評価する。	定期考査
12月	第1編 青年期の課題と人間の自覚			
第1章 青年期の課題と 自己形成	第1節 青年期の意義	5	自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の体験や悩みが青年期に共通するものであることを理解し、各種の統計や意識調査の結果などを参考にしながら社会の中で主体的に生きていくための人生観、世界観ないし価値観の基礎を培い、自己形成に役立てる。 ・日常生活における悩みや葛藤を見つめ直すことによって、自己の生き方が家族や地域社会の在り方の変化やグローバル化の進展に伴う現代の倫理的課題と結び付いていることに気付き、現代に生きる人間としての在り方生き方に関わる諸問題を主体的に探究する。
	第2節 青年期の課題	5	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を理解させ、豊かな自己形成に向けて、他者と共に生きる自己の生き方について考えさせるとともに、自己の生き方が現代の倫理的課題と結び付いていることを捉えさせる。 	
第2編 現代と倫理				
1 ・ 2 月	第2章 現代の諸課題と 倫理	第1節 生命の倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉などにおける倫理的課題を自己の課題とつなげて探求する活動を通して、論理的思考力や表現力を身に付けさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の誕生、老いや病、生と死の問題等を、時事的な話題を取り上げながら考察し、社会保障制度や臓器移植の問題について理解を深める。 ・先哲の環境思想や科学的な見方や考え方を手掛かりにしながら近現代を中心として人間と自然との関わりを考察し、科学技術の発展による光と影の両面について理解を深める。 ・家族を小さな共同体として捉え、社会において果たす役割やジェンダーの問題を考察するだけでなく、男女の対等な在り方と相互の理解、尊重、協力の大切さを理解して将来の自らの生き方を模索する。 ・地域社会が人々の暮らしと労働、子育てや介護を支える場として役割を果たしていることを認識し、新しいまちづくりや地域社会における望ましい人間関係の在り方、地域社会において各自が果たすべき役割について考えを深める。 ・情報ネットワークによって作られる人間関係による直接的な人間関係の希薄化や、知的財産権の問題などを具体的な事例から捉え、これからの情報社会における生き方を考える。 ・自分たちの身近にも外国の人々や様々な文化や宗教との触れ合いがあることに気付き、互いの違いを尊重しあいながら共存する方策について時事的な問題を基に考察する。 ・全範囲における既習事項を踏まえて平和と福祉についての先哲の思想を振り返り、世界平和や人類規模の福祉の実現のために、自分たちができることを考え、国際社会に生きる市民としての自覚を養う。
		第2節 環境の倫理		
		第3節 家族の課題		
		第4節 地域社会の課題		
		第5節 高度情報化社会の課題		
		第6節 文化と宗教の課題		
		第7節 国際平和と人類の福祉の課題		
合 計		105		<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 ワークシート 授業中の発言 定期考査

単元指導計画

単元の名前 社会と個人

1 基軸となる問い：個人と社会全体の幸福・豊かさはどのように両立されるか。

2 単元の目標

幸福・豊かさについての先哲の考え方について時代背景も踏まえて多角的に考察し理解するとともに、社会を構成する一員として望ましい他者との関わり合いの仕方や、他者と共に幸福を実現できるような在り方生き方について先哲の思想を通して考察する。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
①自分自身にとっての幸福・豊かさとは何かを振り返ることができる。 ②世界史や日本史、現代社会の既習事項と関連させて意欲的に学ぼうとしている。	①先哲の思想を基に、自分の言葉を用いてその内容の説明や解釈を表現することができる。 ②他者との関わり合いの仕方や、他者と共に幸福を実現できるような在り方生き方について考えることができる。	①図表を基に、先哲の思想の要旨を読み取ることができる。 ②先哲の著作の一部を参考にして、先哲の思想の内容を読み取ることができる。	①同時代の他の思想家と比較し違いを明確にしなが、先哲の思想内容について理解している。 ②価値や考え方の相対性・個別性を尊重することが民主社会の前提となっていること理解している。

4 指導と評価の計画

時程	学習活動	評価の観点				評価規準等
		関	思	資	知	
第一 次 い	1 個人と社会の調和 — 功利主義 【MQ】 幸福を得るために大切なのは、行為の動機と行為の結果のどちらだろうか。					
	◇幸福についての自分自身の認識を再確認する。	○				①自分自身にとっての幸福・豊かさとは何かを振り返ることができる。 ①同時代の他の思想家と比較し違いを明確にしなが、先哲の思想内容について理解している。
第二 次 い	2 社会の進歩と改善 【MQ】 既存の価値が否定された時、どのようにして新しい価値を作ればよいだろうか。					
	◇プラグマティズムの三人の思想を説明する例文を作成する。指名された生徒が自分の考えた例文を発表する。 ◇多様なものの見方や考え方、価値観を尊重しあうことが民主主義の前提であることを理解する。		○			①先哲の思想を基に、自分の言葉を用いてその内容の説明や解釈を表現することができる。 ②価値や考え方の相対性・個別性を尊重することが民主社会の前提となっていることを理解している。

<p>二 第三次 時間扱い</p>	<p>3 社会の変革 【MQ】社会全体の豊かさと個人の豊かさの矛盾は、どのように克服すればよいだろうか。</p> <p>◇労働は食料獲得の喜びを伴うものであったという資本主義以前の労働と生産と人間の関係を振り返る。</p> <p>◇図や史実を基にして、マルクス主義的な歴史観を把握する。</p> <p>◇文字資料から、議会制度を通じた社会主義の実現や、社会民主主義の内容を読み取る。</p>	○				<p>②世界史や日本史、現代社会の既習事項と関連させて意欲的に学ぼうとしている。</p> <p>①図表を基に、先哲の思想の要旨を読み取ることができる。</p> <p>②先哲の著作の一部を参考にして、先哲の思想の内容を読み取ることができる。</p>
<p>二 第四次 時間扱い</p>	<p>4 主体性の自覚 【MQ】相対的・個別的な在り方生き方が求められるようになったのはなぜだろうか。</p> <p>◇資料から先哲の思想のキーワードや、要旨の説明を読み取る。同じ実存主義を唱える思想家同士の思想の相違点を明らかにしながら考え方の違いを理解する。</p> <p>◇先哲の思想を基に、自分にとっての主体的・積極的な在り方生き方について考える。</p>		○	○		<p>②先哲の著作の一部を参考にして、先哲の思想の内容を読み取ることができる。</p> <p>①同時代の他の思想家と比較し違いを明確にししながら、先哲の思想内容について理解している。</p> <p>①先哲の思想を基に、自分の言葉を用いてその内容の説明や解釈を表現することができる。</p>
<p>一 第五次 時間扱い</p>	<p>5 他者との共存 【MQ】社会は自己と他者とが共存する場であるはずなのに、他者との違いを受け入れられないのはなぜなのだろうか？</p> <p>◇一つの価値観で人間を支配した全体主義を振り返り、望ましい他者との関係性について考える。</p> <p>◇自分の主体性も他者の個別性も共に尊重し、個人と社会全体の幸福を一致させる道筋について、先哲の思想を通して考察する。</p>	○				<p>②世界史や日本史、現代社会の既習事項と関連させて意欲的に学ぼうとしている。</p> <p>②他者との関わりあいの仕方や、他者と共に幸福を実現できるような在り方生き方について考えることができる。</p>

学 習 指 導 案

教科（科目）	公民科（倫理）	単元名	個人と社会（7時間目／計7時間）
本時の主題	他者との共存		
本時の目標	全体主義が生んだ悲劇を振り返り、自己と他者と共に幸福な社会を実現するための在り方生き方とはどのようなものかを考察する。		
評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	
	世界史や日本史、現代社会の既習事項と関連させて意欲的に学ぼうとしている。	他者との関わりあいの仕方や、他者と共に幸福を実現できるような在り方生き方について考えることができる。	
過程	指導の内容・ねらい	学習活動	指導上の留意点・観点別評価
導入	◇自己と他者の関わり	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> SQ. 【自己と他者の関係を、実存主義よりも具体的に捉えてみよう。】 </div> ◇人間は自己と違うものをどのように解釈するか考える。	◇現代文Bで生徒が学習した「〈読み〉の楽しみ」という評論文の一部を抜粋して提示し、MQにつなげる。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> MQ. 【社会は自己と他者と共に共存する場であるはずなのに、他者との違いを受け入れられないのはなぜなのだろうか。】 </div>	
展開	◇他者との違いを受け入れられなかった歴史を振り返る	◇第一次世界大戦後、既存の価値の崩壊によって新しい価値が創造されたことを確認する。 ◇第一次世界大戦後、大衆社会が出現し、「みんなと同じでない」という孤独に耐えられない人間は、結びつきを求めて集団に取り込まれたことを理解する。	◇プラグマティズムの発生と関連付けて説明する。 ◇他者と違うことを不安に思う大衆心理があったということを説明する。
	◇全体主義の成立	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> SQ. 【皆と同じであることは本当に幸せなのだろうか。】 </div> ◇全体主義の特徴を4点挙げ、ドイツや日本において起こった具体的な悲惨な出来事を考えてプリントに書き出す。 <ol style="list-style-type: none"> ①国家・民族・人種の優先 <ul style="list-style-type: none"> ◆具体例…人権や市民の自由の否定 ②集団優先の思想統制 <ul style="list-style-type: none"> ◆具体例…言論・報道・教育の統制 ③集団外の他者への非寛容 <ul style="list-style-type: none"> ◆具体例…ユダヤ人排斥 ④他者との比較による自集団の認識 <ul style="list-style-type: none"> ◆具体例…民主主義・社会主義より全体主義が勝っているという考え 	○世界史や日本史、現代社会の既習事項と関連させて意欲的に学ぼうとしている。【関・意・態】 ◇「皆と同じ」という幸福を優先すると、「違う誰か」は集団から排除され幸福の反対へ向かってしまうという全体主義の結果を、歴史的事実をもとにして提示する。

	<p>◇アレントの人間観</p> <p>◇対話の意義</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>SQ. 【全体主義を避け、他者と共に生きるにはどのような考え方や態度が必要か。】</p> </div> <p>◇他者の尊重を唱えたアレントの思想に触れることで、他者との違いを受け入れ共存していくための考え方について知る。</p> <p>◇人間の活動的な生活においては、他者と言葉を通じて語り合い、自分が何者であるかを暴露する活動が重要である。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>SQ. 【自分と違う他者を受け入れるために取るべき手段は何だろうか。】</p> </div> <p>◇アレントの考えを参考にして、自分と異なる意見・主義・主張をもつ人に会った際にどのように対処すべきか、考えをまとめてプリントに記入する。</p>	<p>◇自己と違う他者を受け入れるためには、言葉を用いた対話が必要であることに気付かせる。</p> <p>○他者との関わり合いの仕方や、他者と共に幸福を実現できるような在り方生き方について考えることができる。【思・判・表】</p> <p>◇記入の際には、唯一絶対の解答を求めているのではないため、個別的相対的な自分の意見をもって記入するよう留意させる。</p>
<p>まとめ</p>	<p>◇他者との共存</p>	<p>◇プリントに記入した内容を、隣の席の生徒と交流する。</p>	<p>◇自分と違う意見が出て、受け入れる態度で聞きあうように指示する。</p>

⑤他者とともに生きる

1. 自己と他者の関わり

*現代文Bの教科書より
丸山圭三郎「〈読み〉の楽しみ」の一節を抜粋して紹介した

■社会は自己と他者とが共存する場であるはずなのに、なぜ〔¹〕
を受け入れられないのだろうか？その理由を知り、解決方法を考えてみよう。

2. 歴史の振り返り

<20世紀の反省>

- WWI 後……①19世紀的価値の「自由」が崩壊
20世紀的価値として「²」が創造された
- ②大衆社会の出現「人と同じ」³ / 人と違う⁴」
*孤独に耐えられない人は、結び付きを求めて集団に取り込まれる

• 全体主義の出現

特徴	具体的な出来事
①個人の自由・幸福より 国家・民族・人種の優先	
②カリスマ的指導者の下 集団優先の思想統制	
③集団の外にいる他者を 受け入れない	
④他者との比較によって 自分たちを認識する	【例】民主主義や社会主義より全体主義が勝っていると考える

■全体主義を避け、他者と共に生きるにはどのような考え方や態度が必要だろうか？

3. アレントの思想

<⁵ >

- アレントの人間観 = 人間を多様なものとみなす (⇔全体主義)
- 3つの活動力

①労働	生存・生殖のための生産・消費 他者との関係 他者の存在を必要としない
②仕事	自分だけで道具や芸術作品を作る 他者との関係 他者の存在を必要としない
③活動	言論を通じて、言葉による説得を行う 他者との関係 他者がいないと成立しない



↳活動によって公共性が形作られる

cf) アリストテレスの「ポリス的動物」=公共の中で公共のために活動する人間

- 公共的領域 (=活動するための場所) の衰退

「公的な共通世界が消滅したことは、孤独な大衆人を形成する上で決定的な要素となった」

- つまり、全体主義を避け、他者と共に生きるために必要なことは…

〔⁷ >〕において、他者と〔⁸ >〕を用いて語り合い、自分が何者であるかを暴露する〔⁹ >〕を通じて〔¹⁰ >〕を再発見すること

4. 自分ならどうする？

- 自分と違う他者を受け入れるために取るべき手段は何だろうか？

アレントの考えを参考にして、異なる意見・主義・主張をもつ人同士が出会ったとき、互いの違いを受け入れながら共存するために必要な言論の方法を考えよう。

【自分の考え】

【 > さんの考え】

倫理プリント

⑤他者ととも生きる

1. 自己と他者の関わり

--	--

■社会は自己と他者と共存する場であるはずなのに、なぜ「他者との違い」を受け入れられないのだろうか？その理由を知り、解決方法を考えてみよう。

2. 歴史の振り返り

<20世紀の反省>

・WWI後……①19世紀的価値の「自由」が崩壊

20世紀的価値として「統制」が創造された

②大衆社会の出現「人と同じに嬉しい」 / 人と違う＝不快

* 孤独に耐えられない人は、結びつきを求めて集団に取り込まれる

・全体主義の出現

特徴	具体的な出来事
①個人の自由・幸福の追求 自己・長生・幸福の優先	国に個人主義の出現 (独逸) 総加算体制
②国家の目的・指導の下 集団生活の強制	ヒトラー: 演説に於いて人々の支持を集めた。
③他者との関わり 自分から受ける	ドイツ国内: 人々の教を信仰しない人々を排除 ユダヤ人排斥 【例】民主主義や社会主義より全体主義が勝っていると考え

■全体主義を避け、他者と共に生きるにはどのような考え方や態度が必要だろうか？

3. アレントの思想

<5. アレント>

・アレントの人間観 = 人間を多様なものとみなす。(≠全体主義)

・3つの活動力

①労働	生存・生活のための生産・消費	他者との関係	他者の存在を必要としない	自分だけで道具や芸術作品を作る	他者との関係	他者の存在を必要としない	言論を通じて、言葉による説得を行う	他者との関係	他者がいないと成立しない	人間性！
-----	----------------	--------	--------------	-----------------	--------	--------------	-------------------	--------	--------------	------

↳活動によって公共性が形作られる

cf) アリストテレスの「ポリス的動物」=公共の中で公共のために活動する人間

・公共的領域 (=活動するための場所) の衰退

「公的な共通世界が消滅したことは、政治的要素を形成する上で決定的な要素となった」

↳ 多様な人々の共存

・つまり、全体主義を避け、他者と共に生きるために必要なことは…

①「公共的領域」において、他者との言葉を用いて語り合い、自分が何者であるかを認識する(=議論)を通じて(=公共性)を再発見すること

4. 自分ならどうする？

■自分と違う他者を受け入れるために取るべき手段は何だろうか？

アレントの考えを参考にし、異なる意見・主義・主張をもつ人同士が出会ったとき、互いの違いを受け入れながら共存するために必要な言論の方法を考えよう。

【自分の考え】

・ どちらにもいい立場の「2つの意見の間には何の仲介も必要ない」と。(偏りなく公平に)

・ お互いを尊重し合えるように話そう

【さんの考え】

・ 他者との対話

倫理プリント

⑤他者ととも生きる

1. 自己と他者の関わり

--	--

■社会は自己と他者とが共存する場であるはずなのに、なぜ「他者との違い」を受け入れられないのだろうか？その理由を知り、解決方法を考えてみよう。

2. 歴史の振り返り

<20世紀の反省>

• WWI 後……①19世紀的価値の「自由」が崩壊

20世紀的価値として「系統年利」が創造された

②大衆社会の出現「人と同じ」嬉しい / 人と違う＝不安

*孤独に耐えられない人は、結びつきを求めて集団に取り込まれる

• 全体主義の出現

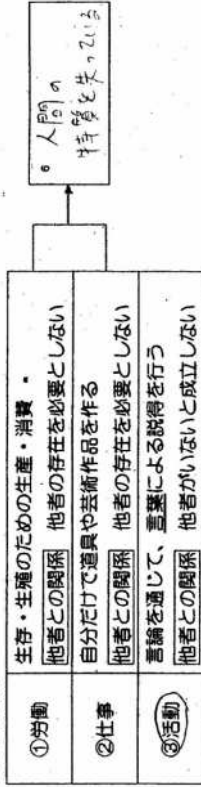
特徴	具体的な出来事
個人主義の崩壊、国家主義の台頭、人種差別	ユダヤ人虐殺 シベリア抑留 系能力者排斥
権威主義的指導者の下、集団主義の形成、個人主義の崩壊	ソ連の計画経済 ヒトラーの独裁
国家主義の台頭、個人主義の崩壊	ユダヤ人排斥
個人主義の崩壊、国家主義の台頭	【例】民主主義や社会主義より全体主義が勝っていると考え

■全体主義を受け、他者と共にはどのような考え方や態度が必要だろうか？

3. アレントの思想

<5 アレント >

- アレントの人間観 = 人間を多様なものとみなす (≠全体主義)
- 3つの活動力



cf) アリストテレスの「ポリスの動物」=公共の中で公共のために活動する人間
「公的な共通世界が消滅したことは、合理的な要素を形成する上で決定的な要素となった」

つまり、全体主義を受け、他者と共には生きるために必要なことは…

「公共的領域」において、他者と「言葉」を用いて語り合い、自分が何者であるかを議論する(「話し合い」を通じて「公共性」を再発見すること)

4. 自分ならどうする？

■自分と違う他者を受け入れるために取るべき手段は何だろうか？

アレントの考えを参考にして、異なる意見・主義・主張をもつ人同士が出会ったとき、互いの違いを受け入れながら共存するために必要な言論の方法を考えよう。

【自分の考え】

自分の意見が絶対正しい！と思いません、相手の意見の正しさも考えながら聞かなければなりません

【さんの考え】

全否定せずに「うん、でも」と相手の意見も聞いてみる。

事後の授業反省と今後の課題

1. 授業研究会を踏まえた反省と課題

■授業の各場面について

①導入

- ・生徒が使用している現代文Bの教科書から今回のテーマに関連する文章を抜き出して紹介した。既習事項を用いて授業の導入を試みたが、話題を投げ掛けて回収されないままになってしまった。提示した文章についての生徒の理解や認識について確認するとよかった。
- ・生徒自身が倫理的問題に対する意識を高めた上で授業に臨めるよう、有効な資料の提示を心掛けたい。

②展開

- ・プリントに挙げた全体主義の特徴に対応する歴史上の出来事の記入がよくできていた。ただ、時期・内容ともに見当違いのことを考えて記入をしている者もいたため、フォローが必要だった。机間巡視での適切な声かけを心掛けていく必要がある。
- ・アレントの思想が、何に向き合い、何を解決するために作り出されたものであるのかを生徒に考えさせることはできないだろうか。

③まとめ

- ・捕鯨の問題を例に、異なる価値観をもつ者同士が共存するために取るべき手段を考えさせたが、一般的な話にまで拡大したために論点がぼやけてしまった。この場合、一般的な話に広げるのではなく、捕鯨という問題に絞って考えさせた方がよかったのではないか。
- ・アレントの思想を用いてペアワークを行うことで思想内容の理解を深めさせたかったが、書き取りの時間を含めてペアワークの時間が十分に取れなかったため消化不良気味になってしまったのが残念だった。今後、あらゆる思想家について今回用いた手法を生かし、思想内容を使いこなすまとめを実践していきたい。
- ・ペアワークの内容がまとめとして適切であったか、ワークシートやノートの細やかな点検も必要である。

■方法について

- ・読む・聞く・話す・書くという4つの行動を有効に活用して、生徒をどのように動かし、どう学ばせるかを考える必要がある。生徒自身に考えさせ、学びを深めさせるためには、教員が説明を我慢する必要が生じる場合もある。

2. 参観者による講評

■授業の各場面について

①導入

- ・他教科や他科目との関連付けと知識確認ができていた。

②展開

- ・全体主義という歴史を総括して把握させながら、現在どうすべきかを考えさせていた。現在を考えるとという意味で大切な内容だと思った。
- ・全体主義の例をグループで考えさせ、どの例に当てはまるかなどを話し合わせてもよかったのではないか。

③まとめ

- ・教員側で、ペアの片方を捕鯨賛成派、もう片方を捕鯨反対派に分けてそれぞれの立場で考えさせてやりとりさせてはどうか。

■方法・内容について

- ・学校教育や日本社会が必ずしも多様性を認めていないジレンマがある。
- ・捕鯨の問題はお互いが傷つかずに解決することは可能なのか。結論として「皆が仲良くしましょう」といった当たり前のことを述べて終わりにならないようにする必要がある。

